

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	げんきのこ			
○保護者評価実施期間	令和7年6月25日 ～ 令和7年7月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年6月25日 ～ 令和7年7月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年8月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアを必要とする児童の受け入れ体制があり、常勤の理学療法士が在籍し、看護師の協力も受けながら、専門的かつ安心・安全な支援を提供している。	・理学療法士が日々の活動の中で姿勢や身体機能に配慮した支援を行っており、看護師とも連携し、体調不良や医療的ケアの必要な児童への対応に努めています。 ・支援員、専門職、保護者との情報共有や振り返りを意識的にを行い、個々の児童に応じた支援内容を柔軟に調整している。	・看護師や外部専門職との連携機会の強化により、より専門性の高い支援を継続的に提供できるよう取り組む。 ・保護者への支援や情報提供の機会をさらに充実させ、家族との連携も深めていく。
2	児童一人ひとりの「できる」に着目し、わずかな表出や意思表示も重視した支援を行っている。	・日々の関わりで、小さな反応にも丁寧に寄り添い、肯定的に受け止めて支援に反映している。 ・「できたこと」を職員間で共有し、活動や目標に柔軟に活かしている。	・スイッチや視線入力などの意思表示ツールの導入を進める。 ・保護者や関係機関とも連携し、「その児童らしさ」に気づき合える支援体制を強化する。
3	バリアフリー設計や静養スペース、吸気スペースなど、医療的ケアに対応できる環境が整っている。	・ベッドがない分、マットを活用し、児童の体調や姿勢に応じた休息が取れるよう配慮している。 ・必要時には静養スペースを個別に仕切り、安心して休める環境を確保している。	・児童の体調やニーズに応じて、ベッドやケア用備品の導入を検討し、より柔軟な対応ができるよう環境の見直しを進めていく。 ・医療的ケアに携わる看護師や保護者の意見も取り入れながら、安全かつ快適なケア環境の整備に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童に対する保護者の対応力向上を目的としたペアレントトレーニングや、家族が参加できる研修の機会を提供できていない	これまで、支援の中心を子ども本人への関わりに重点を置いていたため、保護者の学びの場の企画や情報提供が後回しになっていた。	今後は外部機関と連携しながら、保護者が参加しやすい形式での研修や情報提供の方法（資料配布など）を検討し、家庭での支援につながる学びの場づくりを進めていきたい。
2	地域の他の児童との交流の機会が少ない。	近隣の公園や店舗で地域の方と挨拶を交わすなど、日常生活の中での自然な関りはあるが、他の児童との継続的な交流の場を設けるまでには至っていない。支援の中心が事業所活動に偏りがちで、交流機会の検討が十分でなかったことも要因と考えられる。	地域の福祉施設との連携を検討し、安全に配慮した無理のない範囲で児童同士の交流活動の機会を少しずつ広げていくことが必要。まずは小規模な合同活動や関わりから始め、地域とのつながりを深めたい。
3			